

12 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会における前原かづえ県議の質疑

2016年3月8日

Q．前原委員

- 1 吉良委員の質問に対して、平成27年が第1回であるさいたま国際マラソンを、今後何回やるのか決めていないが、未長く開催したいとのことであるが、引き継いだ横浜国際女子マラソンは、どういう理由で終了することになったのか。また、白土委員の質問での大会の反省点にも関係するが、横浜国際女子マラソンが継続できなかった点をどのように捉えているのか。
- 2 マラソン大会を通じて地域振興を図ることができたとのことであるが、この場合の地域というのは、イベント会場がにぎわったのか、あるいは大会に併せた地域振興策として何かが用意されて、それに関連した地域の人たちの振興につながったのか、考え方を聞きたい。
- 3 スポーツ基本法では、スポーツを通じて、幸せで豊かな生活を営むことは全ての人の権利であるとうたっているが、スポーツを生活の中に取り込んでいくというのは、社会人となると大変である。オリンピック・パラリンピック、それから大規模スポーツ大会を開催する一方、ふだんの生活の中で、大会に参加できる人に限らず、多くの方々がスポーツに参加するような事業についてしっかりと考えているのか。オリンピックなどの大会を成功させるのは当然であるが、それだけでなく、スポーツの基本精神にのっとり多くの方々がスポーツをより楽しみ、体を鍛え健康につながるための取り組みもしっかりと行っているか聞きたい。

A．スポーツ振興課長

- 1 横浜国際女子マラソンが終了した理由については、明確な理由は聞いていない。横浜国

際女子マラソンは、エリートマラソンだけであり、今回のさいたま国際マラソンでいう、日本代表チャレンジャーの部だけの大会であった。また、規模が小さいため、女子マラソンの人気が若干低迷してきたということもあって、経費的な課題もあったと伺っている。今回、さいたま国際マラソンは、今のマラソンブーム、ランニングブームをしっかりと反映をして、エリートだけではなく一般の方も走っていただける大会として再構築をしている点が、横浜国際女子マラソンとの大きな違いである。そういった特色を生かして、引き続きさいたま国際マラソンを進めていきたいと考えている。

- 2 地域振興の捉え方についてであるが、県という立場から全県的な視野を持って対応をしている。会場だけではなく埼玉県全体の様々な地域の観光、物産等がPRできるようにと考え、草加せんべいや狭山茶の配布や各種イベントを通じて、全国から集まってきたマラソンランナーにアピールをして、マラソン以外の場面でも、もう一度埼玉に来ていただけるように取り組みをした。地域というのは埼玉県全域で考えている。
- 3 県民の方がスポーツに親しめる環境づくりとしては、例えば、それぞれの地域に、身近な場面でスポーツに親しんでいただける場を提供する総合型地域スポーツクラブの設立の支援や、県立学校の学校開放などを進めている。

Q．前原委員

大規模スポーツイベントと併せて地域のスポーツ振興のための施策を推進しているとのことであるが、職員体制については万全なのか。

A．スポーツ振興課長

スポーツ振興課の業務としては、生涯スポーツに係る業務、あるいは競技スポーツに係る業務、それからこのような大会を行うための業務がある。これらについては、それぞれ担当を設け、組織体制を整えており、なかなか業務量として厳しい部分も当然あるが、きちんと担当分けをして、課全体の中で調整をしながら業務をしているところである。